

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273400307		
法人名	有限会社 憩		
事業所名	グループホーム 憩		
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1708番地1		
自己評価作成日	平成 27年 10月 15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設周辺は、緑豊かでのどかな田園風景に囲まれており、車の往来も少ない安全が確保しやすい施設内庭～周辺が毎日の散歩コースになっております。畑仕事をしているなじみの近所の方々や挨拶を交わしたり、短い会話を交わすなどの気軽なふれ合いがあります。野菜や果物を頂いたり、お裾分けしたりもあり、昔ながらのどかで心とらく近所付き合いが残っております。又、食事作りでは、利用者さんの献立を中心にホーム畑で栽培している新鮮な野菜は欠かせません。適度な活動や日光浴・自家製米・味噌・野菜等を取り入れた食生活で健康を維持して行く事をねらいにしております。又デイサービス開所後、ご自宅より通われている利用者さんとの交流があり、楽しいひと時を持っております。ご家族や外部の方々、ボランティアさんなどが、気軽に何時でもおいでいただける雰囲気付きり常に心がけていきたいと思っております。 又新棟合同のバスハイクなども行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りは自然が豊かで、利用者はよく散歩に出ている。近くの農家の人達とは日常的に会話や挨拶を交わし、季節の野菜のお裾分けもある。職員の定着率が高く、経験豊富な職員と利用者とのコミュニケーションがよく取れており、安定した運営となっている。今年度は、一時中断していた事業所の祭りを近くの公民館を借りて開催することができ、近隣住民や利用者家族など70名ほどが参加した。地元の子供も一緒に行う和太鼓の演技は参加者から大いに喜ばれた。理念とする「ゆっくり、たのしく、いっしょに」が日々の活動の中で実践されており、事業所の特徴となっている。開設時と比べ高齢化で自立度の低下が見られる利用者が増える中、職員はより見守りを重視し、良い介護方法を工夫し合って支援している。管理者は会議研修等を開催し、一層介護能力のアップを図りたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり、楽しく、一緒に」を理念に、落ち着いたゆったりとした時間を過ごせるようにスタッフも利用者の中に入り談話したり、コミュニケーションをとるようにしています。	分かりやすい理念は、パンフレットにも掲載している。職員が理念にそって、利用者がゆったりと過ごせるよう支援していることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して近所の方々と言葉を交わす場面があり、催しものにも出来るだけ参加するようにしております。	地域の活動は住民でもある管理者が担っている。公民館で行った地域フェスタでは事業所の活動を紹介した。5月には事業所祭を開催し、近隣住民や利用者の家族など70名が参加し、地元の和太鼓などで盛り上がり喜ばれた。来年も計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域フェスタ以外にその場面がありません、この中で日頃の様子やクイズなどで、少しでも理解してもらえると良いと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月置きに開催し、年6回行う中で常に施設内利用者の変化を伝えそこでの意見を介護で実践できるように取り組んでいる。	市の担当者、民生委員、区長、家族代表、会社代表、ケアマネジャー、管理者、関連事業所職員などが参加している。他事業所の事例紹介もあり、会議内容は市の担当課からも評価を得ている。会議で提案のあった家族への議事録送付も始めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議を通して外部の方々と、交流を持っており、介護相談員の来所もあります。	運営推進会議には市の担当課から毎回出席があり、意見交換を行っている。また、利用者の受け入れについて相談を受けたり、市の介護相談員の訪問を受けるなど、関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名の方がベッド柵の拘束に当てはまっています。以前勉強会で理解した内容を元に拘束に至った理由を明白にし、今後の対応を話し合っていきます。	現在やむを得ず、夜間のみ、ベッド柵を使用している利用者がいるが、家族と話し合ったうえで、記録に残し、定期的に見直しをしている。見直しの結果、使用をやめる方向で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に行う勉強会を通し、虐待について学ぶ機会が有り、入浴時や更衣介助の際に身体の外傷がないか確認しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して、知識を高めて取り組んでおります。当施設でもご家族の方で成年後見制度を活用された方がおりますので、情報を提供して頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書を元に説明を行い疑問に答えています。利用者への介護内容などその都度のその都度家族へ相談納得を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の方へは運営会議にてお伝えし、家族からは面会の時やアンケートなどで意見を聞き、話を聞くようにしております。	運営推進会議や家族が面会や親睦会などのイベントで来訪した際に話を聞いている。把握した要望や意見などについては、できるだけ反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別時間は設けてはいませんが、代表や管理者はスタッフの要望や意見を聞き取る機会が日常的にあります。利用者に関しても、設備的な事も意見が反映されることは多々あります。	管理者も参加し毎日ミーティングを行っている。利用者の状態を報告し合うことから事業所の運営に関する事、職員からの提案まで何でも話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『施設で働く人が一体となり経営の健全化と満足感のある職場を目指す』を基本方針に職員が日々安定した生活が送れる様努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県保健福祉部・千葉県社会福祉協議会・全国GH協会・介護労働安定センター・君津健康福祉センター・袖ヶ浦市地域包括支援センター等の研修に常勤・非常勤問わずに各自の立場・経験に見合った研修を受講させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着・小規模ケア推進協議会・全国認知症グループホーム協会・袖ヶ浦市社会福祉協議会に加入し、他事業所との交流を深められる場面があれば、積極的に参加出来る様に配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	
			実践状況	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活や既往歴を知り、今何を求めているかを普段の生活や言動から探り関係を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際にも家族の意向を踏まえサービスを考えます。面会に来た際にも日頃の様子を伝えながら家族の話も聞きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、家族の要望を聞き対応しておりますが、方向性の決まっていない相談者の場合にはサービスを利用しながら対処して行く事を進めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に散歩へ行き、お茶や食事を摂り家庭的に感じられるように家族の一人として接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者へのケアについてお伝えすると共に、家族に確認を取りケアすることで、関係をもてると良いと思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人本人の使っていた家具なども使い、昔なじみの物事を感じられればと思います。	友人が入居者を訪ねてくることもあり、ホームとしても歓迎している。また、家族と外出したり自宅に帰ったりするほか、手紙や年賀状を出す時に手伝うなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を観察し、席を離したりつげたり様子を見ながら、リビングを利用しながら交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、該当者はいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本来、各個人で過ごす時間は、マイペースを尊重しております。食事やその他のお手伝い、レクリエーションへの参加も各自の能力に応じて行い、個性・積極性を尊重しております。	入居前の生活歴などから利用者個々の趣味や興味を把握し、今できることにゆったりと取り組んでもらえるよう支援している。また、日常の会話の中で意向を把握したり、困難な人の場合も、表情などからくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やかかわりのある人から、今に至るまでの経緯を聞き、又本人との会話から暮らしの様子を探ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子から変化がないか、身体能力を見て、ご自分で出来る事をして頂くよ関わっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、利用者に対しての課題を話し合い必要であれば3者で話し合いを行い、日常のケアと病院など連携を取り計画を立てております。	ケアプラン実施表を作成し、日々のケアと介護計画を照らし合わせ、チェックする作業を毎日行っている。その中での気づきは、その都度、ケアマネジャーに報告し、スタッフ間で話し合い、現状に即した具体的なプランとなる様に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施表、普段の様子などを記録した物などで情報を共有し、スタッフ間で話し合いをします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携体制により、入居者の健康を維持出来る様な柔軟な対応をしている。隣接している訪問介護職員の介護技術をアドバイスして頂く事もある。さらに多機能を生かす取り組みとして現在「共用型」通所介護の開設予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアセンターを通じてお手伝いを頂いたり、市政防災課にSOSネットワークが構築されており、行方不明等警察に連携が取れるようになっています。消防署とは避難訓練・救命講習等ご指導を頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医から、風邪薬等の処方を受け、往診を受けますが、すでに主治医にかかりつけなど、その方に応じて医療を受けて頂いております。	現在、2週に1回、ホームの協力医の往診があり、多くの利用者がを受診している。専門医受診や、入居前からのかかりつけ医受診なども、職員が同行するなど、意向を尊重しながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体や医療機関受診等の情報を知らせその場でスタッフが出来る事に関して指示を仰ぎます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、家族と経過を見ながら病院関係者と情報交換し、家族の希望や医師との話し合いを持って安心して入院して頂ける様にしております。退院においても、なるべく早く退院出来る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の悪化や介護の範囲を超える状態に近づいた際には家族の意向を確認し、終末の場合はサインを頂いております。	これまで、数名の看取りを行っている。中には、家族が遠方で来所が難しく、職員で看取ったケースもある。利用者の重度化や終末期への対応は、入居時に説明し、入院など状態が悪化した時には、再度、家族などの意向を確認している。終末期に向けては、改めて説明し、同意書にサインをもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署で行う蘇生訓練に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃の散歩の機会が防災訓練の一つになっていると思います。消防計画書を元に毎日の設備点検と自主的に避難訓練を行って行く計画を立てております。	日々の散歩の中で、避難場所を確認したり、地域住民には災害時の協力を依頼している。年に2回の防災訓練を予定していたが、今年度は、消防署が立ち会う訓練を1回実施したに留まった。	利用者の安全を最優先するには、定期的な避難訓練以外に職員間で話し合う事も必要と思われる。夜間災害時の対応方法、あらゆる災害を想定した備蓄品、地域住民との連携など更なる取り組みが求められる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生き方、生活、性格から傷つけない声掛けやかかわりを持つように、心がけております。	トイレへは「ちょっと歩いてみましょうか」と声かけ誘導するなどプライバシーに配慮している。またいろいろな場面で本人の思いを温かく尊重する場面が見うけられ、利用者を尊重する声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく、話を聞き本人がどうしたいのかを引き出す関わりを持つようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたい、外を歩きたいなど、成るべく要望に沿うようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服など、外出の際選ぶのを迷っている様でしたらアドバイスし、毛染めをされている方は定期的に美容室へ予約を取ります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューなど一般家庭の様に要望を聞き、下準備や片づけなど出来る範囲一緒に行って載っています。	配膳や後片付け、「いただきます」の声かけ等、できる部分で利用者も参加している。畑で収穫した野菜を多く使った彩りのよい食事を作っている。他の人の料理が気になってしまう利用者を、隣の席の人がさりげなくフォローするなど、自然に助け合いながら食事をする様子が確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその方に合わせ、食事以外にも水分を取って頂くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯などをしている方など、常に入れ歯が入っているかの確認をし、口腔内に変化がないか確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		定時でトイレ誘導を行っているが、その方の日常の動作を観察し排泄パターンを探ります。		自立している人、声をかけ確認すればできる人、確認だけすればよい人など、利用者の状況を分けて考え、排泄の自立に向けて支援している。また、薬に頼らず、ヨーグルトの摂取や野菜を多くするなど、食の面からも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		便秘の予防にヨーグルトを勧め、出来る限り散歩にも取り組もう様にしております。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		週2回 自立の方、一部介助見守りで入浴できる方は、夕食後に入浴して頂く事があります。		基本的に、週2回の入浴としている。入浴時間についてはできるだけ希望に沿うようしており、夕食後に入浴したいという場合はそのようにしている。しょうぶ湯やゆず湯など、季節ごとの行事も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		日の光を浴び、体内リズムが働く様に午前中の散歩を心がけ、落ち着いた気分で、入眠して頂け湯用に心がけております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		スタッフが服薬一覧表を常に確認できる状態で、服薬の変更があれば、申し送り服薬中の様子を観察しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		散歩、買い物、外食、カラオケ、すべてではありませんが、一人ひとり楽しいと思ってもらえる働きかけをしていきたいと思っております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		日常的な買い物やドライブは対応できますが、外出の機会は少なくなってきました。		散歩に積極的に出かけ、近所の人との交流につなげている。最近では体力的に散歩に出ることが難しい利用者も増えているが、バスハイクを行うなど、外出の機会をつくるよう工夫している。また、週2回の食材の買い出しの車に同乗する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況の変更箇所記入(赤線を引いて)	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理しながら、ご自分の好きな買い物をしてあります。自己管理は出来ませんが、支援すると出来る方にはその都度買い物時にお金をお渡しして購入して頂く様にしています。ご家族にも使用状況を報告しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限はありませんが、明らかに自分で対応できない方については、スタッフが中に入り、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いを出さぬ様、こまめな清掃と換気に対応し、リビングに於いては音楽を配して心地良さを感じて頂ける様に配慮しております。	室内は、明るく、温かく、湿度にも配慮されている。季節を感じられるような飾りつけを行い、ゆったりした音楽を流し、居心地良い空間づくりがされている。職員がにこやかに話しかける、料理をする音が聞こえるなど、家庭的で温かい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方によって家具や小物も違います。気の合った利用者同士の自室を往来する交流があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人から必要だと要望のあったものに関して、家族に購入をお願いするか代行で買ってきて使用して頂いています。	好みの家具が持ち込まれている居室が多く見られた。趣味で作っていた作品や家族の写真、仏壇が置かれている居室もあり、本人にとって気持ちが安定できる場となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かず、洗濯物などをたたむ等日常的に家事に成るべく参加して頂いています。		